



大阪府
協歯科医院
脇 宗弘 先生

操作性だけでなく色調再現性にも優れたコンポジットレジン

近年の歯科臨床においては、金属を用いた物理的嵌合に頼った従来からの合着による修復方法より、直接法コンポジットレジン修復に代表される接着修復治療

が普及し、術者側の第一選択となってきているだけでなく患者側のニーズにもなっている。その背景には接着修復材料の高性能化による恩恵も大きい。インターネットの普及により患者自身が持つ歯科に対する情報や知識が格段に増えて来たことも大きな要因であるとする。

金属色よりも歯冠色での修復を望むという視覚的な理由だけでなく、健全歯質を可及的に残すことが出来る(良い歯質を出来るだけ削られたくない)治療への要求度が高まってきている。現在における修復治療のグローバルスタン

ダードとは、MIコンセプトに基づき接着修復治療を行うということである。

特に直接法コンポジットレジン修復治療はその最たる例と考えるが、術者のスキルに術後結果を左右されやすいのも事実である。接着操作のテクニックセンシティブな部分もあるが、狭い口腔内でコンポジットレジン直接窩洞に充填し、形態・色調を再現しなければならないという部分は使用材料が持つ製品特性に大きく左右される。

今回発売されたナノハイブリッドコンポジットレジンのハーモナイズは操作性(器具離れがよく賦形しやすい)に優れるだけでなく、色調再現性(天然歯のような光拡散性をもつことにより残存歯質や隣在歯と同調する)にも優れ、十分に満足が得られる結果をもたらしてくれる材料である。



1 術前。下顎左側第一・第二大臼歯にメタルインレーによる修復が行われている。患者は過去の脱離経験と金属色の改善を希望したため直接法コンポジットレジン充填にて再治療をすることとした。



2 オプチダムとソフトクランプを用いて防湿を行い、充填物と感染象牙質を除去、窩洞周辺のエナメル質を形成。



3 接着操作の後、窩底部にはフロアブルレジジンでライニングを行い、ハーモナイズのデンチンA3.5にて窩洞の中間層を充填。



4 歯冠形態をハーモナイズのエナメルA1にて回復。



5 術後。咬合調整の後、オプチワンステップ ポリッシャーとオプチシャインを用いて研磨を行い、術後4日経過。